

平成27年度 自 己 評 価 表

鳥取県立青谷高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	社会人として通用する人間を育てる	今年度の 重点目標	①生徒指導の充実:「時を守り、場を清め、礼を正す」「大きな声で校歌を歌う」 ②「確かな学力」の定着:基礎学力の定着＋キャリア教育の充実＋自信と誇りの育成 ③地域との連携を推進する
-------------------	------------------	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 生徒指導の充実:「時を守り、場を清め、礼を正す」 「大きな声で校歌を歌う」	(時を守る) ・規則正しい生活習慣が身に付き、毎日を健康に送ることができている。 ・遅刻、欠席がなく、授業の始まる前には準備が整い、意欲を持って学習に臨んでいる。	・ほとんどの生徒が、授業の始まり終わりの挨拶を大切にし、けじめをもって自律的に行動。 ・一部の生徒に遅刻・欠席があるものの、大半の生徒においては、遅刻・欠席が減少。	・健康や安全に対する意識が高く、食事や睡眠を大切にした規則正しい生活習慣のもとに学校生活を送ることができている。(朝食の取得率が85%以上) ・学校生活における規律への意識が醸成され、規則正しい生活と意欲的な学習活動が行われている。(遅刻、欠席数が昨年度比60%)	・体力増進プロジェクトにより生徒・保護者に規則正しい生活と健康の大切さを啓発し、家庭との連携も深める。 ・より一層けじめのある授業展開を図る。 ・朝の校門指導により遅刻の防止を推進。	・7月時点の朝食摂取調査では、90.4%の生徒が、朝食をとっている。一方メールやゲームで就寝時間が遅くなっている生徒もいる。 ・欠席、遅刻は、絶対数では昨年度より減少しているものの、目標の昨年度比60%には厳しい状況。	C	・欠席、遅刻について、当初の数値目標実現は厳しいが、目標値に近づけるべく、全体及び個別に生徒に働きかけ、意識の高揚を図る。 ・授業の開始前に準備ができているようにする。また授業開始のチャイムに始まり、終了のチャイムで終わることを徹底し、けじめをもって行動させるようにする。
	(場を清める) ・毎日の清掃活動を大切にし、気配りのある行動がとれている。 ・学校内が清潔に保たれ、整理・整頓が行き届いている。	・朝清掃が定着し、生徒全員による清掃活動を励行。 ・紙コップなどの放置がみられ、教室内や個人ロッカーの整理整頓が不徹底。	・清掃活動が丁寧に行われるとともに、整理整頓が徹底し、学習環境が整備。	・環境整備プロジェクトにより学習環境の整備を図り、5Sの定着も進める。	・毎朝の清掃活動は、職員の指導の下に基本的にできているが、教室内や個人ロッカーの整理整頓で不十分な面もある。	C	・教室内や個人ロッカーの整理整頓を徹底する。
	(礼を正す) ・明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができる。 ・丁寧な言葉遣いと制服の正しい着こなしが保たれている。	・職員による朝の校門指導が定着し、挨拶や身だしなみに対する意識が向上。 ・しっかりと挨拶ができる生徒もいるが、制服を着崩す生徒や言葉遣いが不十分な生徒が一部に存在。	・明るい笑顔で挨拶ができ、「場・時・人」に応じた正しい言葉遣いができる。 ・制服を正しく着こなすことができている。	・教員の共通理解のもと、カード指導を含め毅然とした姿勢で指導するとともに、丁寧に粘り強い指導を継続。 ・生徒にとって見守られ感と安心感を感じる指導の実践。	・生徒指導部職員による校門指導や生徒会執行部によるあいさつ運動の成果がみられ、あいさつのできる生徒が増加。 ・服装面については、ルールに沿った生徒の割合が増加。	B	・授業の開始前に準備ができているようにする。また授業開始のチャイムに始まり、終了のチャイムで終わることを徹底し、けじめをもって行動させるようにする。
	(大きな声で校歌を歌う) ・式典や学校行事で校歌を大きな声で歌うことができ、澁刺とした雰囲気全体に満ちている。	・式典に臨む意識は向上。集合、整列の時間が短縮。校歌を大きな声で歌うことについては不十分。	・学校行事や全校集会で規律ある行動がとれ、校歌を大きな声で歌うことができる。	・式典の意義、式典に臨む態度やマナーを丁寧に指導するとともに、学校に対する帰属意識や誇りをもたせる指導を行う。	・式典や全校集会に臨む姿勢や意識は向上。 ・生徒会主催の集会では、執行部の生徒のもとで集会が進行。 ・校歌を大きな声で歌う点は不十分。	C	・式典などの意味を理解し、自ら考えて行動できるようにする。 ・校歌を大きな声で歌えるように、生徒自身の自己肯定感や学校への帰属意識を高める。
2. 「確かな学力」の定着:基礎学力の定着＋キャリア教育の充実＋自信と誇りの育成	(基礎学力の定着) ・丁寧な学び直しが行われている。 ・学びに対する満足度が高く、真摯な態度で学習に臨んでいる。	・基礎学力診断テストの成績下位層が少しずつ減少。	・学習に対する生徒の満足度が高く、真摯な態度で学習に取り組んでいる。(学習力指数が2.5以上)	・学力向上プロジェクトを中心に丁寧な学び直しを行うとともに、学ぶ意欲を向上させる授業改革を進める。 ・生徒面談を通じて生徒理解を図り、個々の生徒に応じたアドバイスを行う。	・学力向上プロジェクト担当を中心に、今後の授業改革の進め方を検討。他校の研究授業に参加。 ・学校行事の中に、生徒面談を位置づけ、生徒の意識向上を企図。	C	・学力向上プロジェクトの検討したことを踏まえて、学校全体の取組を明確にしていく。 ・生徒面談を重視し、生徒個々の長所を伸展に努める。
	(キャリア教育の充実) ・将来の社会生活や職業を見据えた科目選択と進路決定がなされている。 ・進路に係る教科外活動にも積極的に取り組んでいる。	・自分の進路目標に向かって意欲的に学習に取り組む生徒が増加している一方で目標設定に迷い、学力不振や学習意欲を減退させている生徒も存在。	・将来の社会生活を見据えた進路目標を見定め、意欲的に努力を積み重ねている。(授業評価アンケートの結果全項目が3.0以上) ・生徒がお互いの目標を認め合い、励まし、切磋琢磨する環境となっている。	・各年次の「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、「課題研究」を中心に、各年次に応じて、生徒自らのキャリアデザインの意識を高揚させる。	・1年次では卒業生を招いた講演会を実施。 ・自己肯定感を高めることを目的として全校生徒を対象とした講演会を実施。	C	・将来の進路を考えさせながら、個々の生徒と対応しながら、コース選択や科目選択を行う。 ・講演会を受けて、3行日記に継続して取組み、生徒の自己肯定感を高める。
	(自信と誇りの育成) ・生徒会活動や学校行事に積極的に参加している。 ・部活動が活発で、活動への意欲が高い。	・体験的学習や学校行事に意欲的に参加する生徒、あいさつのできる生徒の増加。 ・部活動への加入率が徐々にではあるが上昇。大会等での結果にも成果が表れる傾向。	・多くの生徒が部活動に加入し、学習と部活動の両立に努力し、高い満足と自信と誇りを持っている。 ・生徒会活動や委員会活動が活発であり、生徒個々の参加意識や貢献意欲が高い。	・教科指導や体験的活動などの様々な場面で生徒が達成感を得られるよう、指導内容や評価の改善を図る。 ・部活動が自分を成長させる大切な場であることを啓発し、加入を促進する。	・生徒会執行部が自ら率先して毎日のあいさつ運動を展開。 ・地域等のボランティア活動に参加。 ・各部で日々活動することで、部活動の意義が生徒自身に反映。	B	・今後も生徒の活動を学校として支援。生徒が取り組んだことが、自信につながっていくように、活動を推進する。
3. 地域との連携を推進する	(地域への情報発信) ・学校の特色や生徒の活動などが適宜発信され、保護者、地域の理解度が高い。 ・生徒の校外活動が積極的で、地域からの理解や信頼が厚い。	・PTA広報誌が定期的に発行。内容的にも充実。 ・学校ホームページによる情報発信が遅れがち。 ・地域の活動やボランティア活動への参加が活発化。地域からの期待も高まる状況。	・タイムリーな情報が時宜を逃さずに学校ホームページによって発信。PTA広報活動の継続。 ・生徒が様々な地域の活動やボランティア活動に積極的に参加。地域からの期待と信頼の獲得。	・学校ホームページなどを活用し、時宜を逃さない情報発信ができるように取り組む。 ・生徒の校外における体験的な活動を積極的に進め、地域の教育力の支援をとおぐ。	・学校のホームページを随時更新。学校の情報をすばやく公開。 ・地域の協力のもと、ボランティア活動や地域の取組に参加。	B	・生徒の活動の様子を今後も継続して更新することで、保護者・地域の方の理解と協力をあおぐ。
	(地域人材の活用) ・社会人講師等による多様な講演や研修が行われている。 ・学校評議員や地域の有識者との意見交換が定期的に行われている。	・社会人講師や地域の有識者の協力のもと講演や研修などを開催。いただいた様々な提言を学校運営に反映。	・PTA総会、その他PTA諸活動への保護者の参加率の向上。(PTA総会をはじめとする行事への保護者の参加数が昨年度より増加) ・地域、保護者の方から学校運営へ一層の協力。	・生徒の現状や学校課題に即した講演会や研修を企画し、外部有識者の活用を一層促進する。 ・学校評議員や地域人材との協力と一層の連携。	・学校行事にPTA役員の方が参加。役員以外の保護者の方の来校の増加について工夫の必要。 ・学校行事の際に、地域の方の参加。 ・地域の方を講師に招いた授業の実施。	C	・保護者への文書配布とともに、ホームページで文書を掲載し、学校行事などの取組を保護者に周知して、参加者の増加を図る。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]